

将来像(案)：「伴に奏であう、ハーモニーあふれる富士見市都市産業」

青字…第2回審議会からの変更点・追記点
(具体的な取組の欄)赤字…現計画(第3次ビジョン)に位置付けがないもの

課題	取組方針	新No	取組の方向性	具体的な取組	審議会・懇談会のご意見、調査等の内容
【課題1】 減少する事業者への対応 (創業者)	【取組方針 1】 新たに活躍する事業者を増やす	1-1	創業機運の醸成	○創業支援セミナーの開催 ・創業を検討する方を対象とした市主催セミナー。受講者同士の交流促進も含む。	(懇談会・ふじみ野 No2,3) 創業相談に至る前段階での創業体験を聞ける場・知ることができる場
				○県イノベーション創出施設(渋沢MIX)との連携・活用 ・埼玉県創業支援施設(令和7年度開設)、企業・起業家等の交流・マッチングの創出拠点	<県のイノベーション拠点施設として開設>
				○創業パネル展の開催(日本政策金融公庫など、金融機関との連携) ・創業のノウハウや市支援制度、創業事例など、創業のためのヒントの展示など	(懇談会・ふじみ野 No2,3) 創業相談に至る前段階での創業体験を聞ける場・知ることができる場 (第2回 審議会) パネル展に創業体験者がいて、話を直接聞ける機会があるとよい。 (懇談会・鶴瀬 No.40) 地域の事業者が知識・ノウハウを伝える場や、創業に関する疑問に答える仕組みを整えるなど、地域で培われた経験を新しい世代へ活かせるとよい。
		1-2	創業のための相談	○経営・創業相談支援 ・創業に必要な事業計画や資金調達方法など、専門アドバイザーによる伴走型相談支援	(懇談会・ふじみ野 No.3) 手軽に気軽に創業相談できる窓口
		1-3	創業に向けた支援	○創業における支援【産業振興基金活用事業】 ・創業にかかる設備投資等(1事業所改装、2販路開拓、3商号(設立)登記)への助成(創業者支援補助金)) ・創業資金調達のための融資利子への一部助成(新規創業者支援利子補給金)	(懇談会・ふじみ野 No,6) 資金、場所、設備、地域の雰囲気など、チャレンジしたいという環境を整える <市の既存事業として取組中>
○空き店舗の不動産情報等の発信 ・創業者へ向けた地元不動産業の協力による空き店舗情報や商店会の情報などの発信強化	(商業等実態調査) 駅前エリア、鶴瀬駅東通り線(鶴瀬駅～ららぽーと間)に店舗が増えて賑わうとよい。 (懇談会・ふじみ野No,13) 飲食店にとって、ふじみ野駅周辺は開店しやすい空き店舗が少ない。 (懇談会・鶴瀬No3,4,25,32) 創業者への商店会の紹介、空き店舗の紹介。鶴瀬駅・ららぽーと間で買い物を楽しめる。ららぽーとへの人流の活用。 (懇談会・みずほ台 No,16,25) 空き店舗を活かすマッチング支援や家賃補助などがあると良い。廃業時の設備の処分にもお金がかかるので、やる気のある創業者へうまく引き継ぐなどマッチングがあるとよい。				
○出店機会の創出の検討 ・商業インキュベーション施設整備(埼玉県『新たな担い手』による商店街賑わい創出事業補助金※)の活用 ・チャレンジスペース、実証実験などの検討 ※実行委員会が実施する開業希望者向けの魅力発信、商店街などが実施するインキュベーション施設整備に対する補助金(令和7年度～)	(懇談会・ふじみ野 No.1) チャレンジショップ利用の創業であっても創業コストがかかるのは変わらないため、初めから普通に開業へ向けて資金利用した方が効率が良いという考えもある。 (懇談会・ふじみ野 No.6) 資金、場所、設備、地域の雰囲気など、チャレンジしたいという環境を整える必要がある。				
1-4	出店機会の創出	○チャレンジショップ、実証実験などへの支援 ・創業を始めるきっかけとなるチャレンジ店舗スペースへの支援について検討 ・商業インキュベーション施設整備(県賑わい創出事業補助金)の活用	(懇談会・ふじみ野 No.1) チャレンジショップ利用の創業であっても創業コストがかかるのは変わらないため、初めから普通に開業へ向けて資金利用した方が効率が良いという考えもある。 (懇談会・ふじみ野 No.6) 資金、場所、設備、地域の雰囲気など、チャレンジしたいという環境を整える必要がある。		
【課題1】 減少する事業者への対応 (既存事業者)	【取組方針 2】 意欲ある事業者の成長を支援する	2-1	持続的経営のための相談	○経営・創業相談支援 <再掲> ・事業計画や課題解決など、経営に必要な情報を専門アドバイザーによる伴奏型相談	(懇談会・鶴瀬No,1)ビジネスという面では淘汰はあるもの。市としては、頑張る個人・中小企業を支援し強い事業者を増やすことに重点を置くことが重要。
		2-2	持続的経営への支援	○経営改善の取組への支援【産業振興基金活用事業】 ・経営課題に対する改善取組への助成拡充(1経営改善、2研究開発、3人材育成、4販路開拓、5 DX化＝テレワーク、生産性向上支援、6設備導入、7経営革新)(中小企業チャレンジ支援事業補助金)	(懇談会・鶴瀬No,1) 同上 (懇談会・ふじみ野 No,7) (懇談会・鶴瀬No38) 補助金について、伝わりやすい・わかりやすい周知方法の検討。 (懇談会・みずほ台 No,14) 複数の店舗が各自のSNSを利用して、相互宣伝を実施(SNSなどのによる発信強化への支援) (第2回審議会)創業時の補助金などの支援だけでなく、既存店を盤石にしていことが重要。
				○キャッシュレス決済サービスの導入支援【産業振興基金活用事業】 ・新たな決済サービス導入への助成(中小企業チャレンジ支援事業補助金 5 DX化)	(商業等実態調査)市民のキャッシュレスのニーズと事業者の対応の回答の間にギャップあり。 (懇談会・鶴瀬No,36,46)キャッシュレス決済の増加。国主導でキャッシュレス化を進めているが、強引に進めすぎていて事業者が追い付いてない。 (懇談会・ふじみ野 No,8)飲食店でキャッシュレスが全体の5割、既に必要不可欠。
				○経営革新計画、先端設備等導入計画等の策定支援 ・新たな取組を検討する経営革新計画、労働生産性向上や質上げ促進のため先端設備等導入計画など策定にかかる相談支援	<市の既存事業として取組中>
				○商工会への支援・連携強化 ・経営改善等支援事業など、事業者支援を行う商工会への運営助成(商工会事業補助金) ・会員増加に向けた取組への支援	<市の既存支援として取組中> 商工会や商店会など、未加入事業者へのアプローチ(チェーン店、創業者など、加入メリットなど周知啓発)
		2-3	事業者の付加価値の向上	○価値共創プラットフォーム『SDGsフジミライテラス※』・県SDGsパートナーへの参加促進 ・社会貢献・地域貢献を目指した事業機会の創出・相互啓発など、共創事業への参加による事業者の付加価値向上 ※SDGs未来都市(内閣府認定)にかかる地域貢献等の共創事業	(懇談会・みずほ台 No,5) 価値共創プラットフォーム『SDGsフジミライテラス』との連携
				○環境負荷低減の取組支援 ・太陽光発電システム、電気自動車などの導入による持続可能な取組への助成(再生可能エネルギー機器等導入事業者補助金、次世代自動車等導入促進補助金)	<市の既存事業として取組中>

課題	取組方針	新No	取組の方向性	具体的な取組	審議会・懇談会のご意見、調査等の内容
【課題2】 多様化する消費行動への対応	【取組方針 3】 多様な消費ニーズにこたえる	3-1	DX化・キャッシュレス化等の推進	○DX化に向けた相談支援 ➡SNS活用セミナー(生成AI、SNS活用など)、キャッシュレス導入、インターネット販売などに関する情報周知など	(懇談会・鶴瀬 No.33) 生成AIなどのサブスク代金の補助などがあるとよい。 (懇談会・ふじみ野 No.8,18,19) 飲食店でキャッシュレスが全体の5割、既に必要不可欠。 また、若い世代は生成AIが生活の一部となっており、更なる生活様式の変革につながると思う。生成AIの事業への活用についてのセミナーなどがあると是非参加したい。 (懇談会・みずほ台 No.14) 複数の店舗が各自のSNSを利用して、相互宣伝を実施したい。
				○DX化・キャッシュレス決済サービスの導入支援 <再掲> ・新たに決済サービス導入への助成など(中小企業チャレンジ支援事業補助金 5 DX化)	(商業等実態調査)市民のキャッシュレスのニーズと事業者の対応の回答の間にギャップあり。 (懇談会・鶴瀬No.36) キャッシュレス決済の増加。 (懇談会・ふじみ野 No.8) 飲食店でキャッシュレスが全体の5割、既に必要不可欠。
		3-2	販売チャネルの拡大促進	○宅配サービスによる買い物支援 ・買い物弱者など、市内事業者による宅配情報冊子の提供(宅配電話帳・HP掲載)	(懇談会・鶴瀬No.49) 年に4～5件の問い合わせあり。もっと周知するとよい。
				○移動販売(うえたん号)の実施 ・高齢者の見守りなど通いの場の役割も兼ねた買い物不便地域への移動販売	(懇談会・鶴瀬No.48) 高齢者対策のために移動販売は必要。更なる周知を行うとよい。
		3-3	地元産品の消費機会の拡大促進	○特産品・地元産品の普及促進、新たな特産品の発掘 ・地域イベントなどでの特産品・地域産品の販売を通じた普及促進など	(商業等実態調査)市民アンケート(問9:商店会に取り組んでほしいこと＝4位「地元農産物の販売15.6%」)
				○ふるさと納税(まちづくり寄附)制度の活用 ・返礼品の拡充に取り組み、事業者の販路拡大	<市の既存事業として取組中>
【課題3】 地域商業の在り方の検討	【取組方針 4】 まちの魅力と賑わいをつくる	4-1	賑わいの創出と地域交流の促進	○地域活性化イベントへの支援・拡充 ・商店会等(商店会・商連・活性研など)の地域単位の賑わいづくり事業の運営助成(商店街活性化推進事業補助金)など	(懇談会・鶴瀬No.20) 補助要件の変更(複数回、増額など)を希望。 (懇談会・鶴瀬 No.18) 商店会では公園の減免が受けられない。 (懇談会・ふじみ野 No.5) 1日単位の公園利用料金の設定希望。(使用条件などの緩和) (懇談会・みずほ台 No.15) 商店会主催でも公園・公民館・小学校を利用したイベントを希望。 (懇談会・ふじみ野 No.12) 「まちゼミ(お店の人が講師となって専門知識や情報、コツを無料で受講者に伝える少人数ゼミ)」のような取組があるといい。個店の魅力発信が重要。
				○ふるさと祭り(産業コーナー) ・市最大の活性化イベント	<市の既存事業として取組中>
				○商店会組織同士・事業者同士の連携の推進 ・広域連携による複数の商店会が連携するイベント等事業への支援(新規補助制度の検討) ・エリア毎の事業者同士の連携の推進(懇談会の開催など)	(懇談会・鶴瀬No.15,16,17) 商店会同士の横断的協力によるイベント、商業者以外も含めたエリア毎の事業者の集まりなど、「面」で取り組んでいきたい。 (懇談会・ふじみ野 No.15, 21, 22) こども商店街など定期イベントを通じた販売スタイル・収益化モデルの構築。まずは集まる場の設定や連絡網など事務局として市が主導してほしい。 (懇談会・みずほ台 No.2,3,4) 商店会同士の意見交換、共通課題の洗い出しとノウハウの共有。 (第2回審議会)商店会・地域を超えて、若い事業者のつながりがあるとよい。
				○市の賑わい事業との連携強化や、官民連携事業の活用など ・デジタルサイネージ、ふるさと祭り、文化イベント等の賑わい事業の活用など ・シェアサイクルステーションの設置検討(駅前商店街など) ・埼玉県『新たな担い手』による商店街賑わい創出事業補助金活用の促進<再掲>	(懇談会・鶴瀬No.7) 商店会と交通事業者との連携強化(商店街にシェアサイクルステーション設置による収益化と、来訪者を増加させる仕組みづくり) (懇談会・鶴瀬No.11,37) 駅前での情報発信、デジタルサイネージの活用など (懇談会・ふじみ野 No.24) シェアサイクルステーションは街中に少ないので、増えると良い。
				○商店街の施設整備への支援 ・駐輪場や広場、街路灯など、賑わいづくり施設の修繕・整備への助成(商店街環境整備補助金)	<市の既存事業として取組中>
				○農商工連携事業の実施 ・いい富士見の日「ふじみマーケット」ららぽーと連携事業 (ふじみ産業元気づくり事業補助金)	(審議会)イベントなどにおける農産物の販売など、様々な場での6次化産業をすすめられると良い。 (懇談会・鶴瀬No.53) サービス業としては、物販が主体となる「ふじみマーケット」への参加が難しい。
				○大学や地域と事業者の連携・交流の促進 ・近隣大学のフィールドワークなどへの協力	<市の既存事業として取組中>
				○市民や地域活動団体多様な主体の参画による地域魅力づくり活動 ・イベントの多様化支援の推進 ・商店会などの地域イベントなどとの連携・参画誘発 ・大学・金融機関等との包括協定の活用	(懇談会・鶴瀬No.22) イベントの担い手不足 (懇談会・みずほ台 No.30) 町会のイベントを商店会が手伝うなど、町会と商店会のつながりが強くなればメリットも大きいのでは。
				○新たな地域商工業イベントへの支援 ・新たな組織体による活性化事業の立ち上げへの助成(地域商工業イベントスタート支援事業補助金)	<市の既存事業として取組中>
		4-2	地域課題解決へ向けた取組の強化	○地域の安全・安心に貢献する取組、地域課題解決のための取組への支援 ・商店会街路灯の維持管理への助成(商店街等環境整備事業補助金) ・防犯カメラ設置の促進	(懇談会・鶴瀬No.30) 商店会街路灯は地域の安全対策として、商店会が維持していることの周知強化。 (懇談会・みずほ台 No.17、32) 商店会街路灯は安全面・防犯面の役割あり。電球交換の費用を補助してほしい。 (第2回審議会)地域の個店を利用することで子供への声かけなど、防犯・安全面で期待したい。
				○商店会等の課題解決への支援 ・商店会等の自立的運営を目指す取組み、地域の魅力向上に資する取組みに向けた支援(運営相談・計画策定支援など)、県支援制度(専門家派遣など)の活用 ・商店街組織の再編など、課題への解決支援	(懇談会・みずほ台 No.7) アドバイザーによるコンサルタントなど意見が欲しい。 (懇談会・みずほ台 No.10) 人手不足の課題に対し、商店会の準会員(サポーター)制度による人材確保 (懇談会・鶴瀬 No.28) (懇談会・みずほ台 No.9) 商工会や商店会など、未加入事業者へのアプローチ(チェーン店、創業者など、加入メリットなど周知啓発する。 (第2回審議会)商店会など商業者団体でも利用可能であること、会議などへの派遣ができることをもっと周知すると良い。
				○事業者と行政による非常時に備えた防災協定の推進	<市の既存事業として取組中>
		4-3	地域資源(特色ある公園など)を活用した魅力の発信	○シティプロモーション戦略との連携による魅力の発信 ・フィルム・コミッション、ココシルPRサイト、PR大使などの積極的な活用	<市の既存事業として取組中>
				○地域資源(公園など交流拠点である公共施設等)の活用 ・交流拠点(びん沼自然公園、大御庵の杜など)の活用と魅力の発信 ・地域資源を活用した魅力の発信を目的としたイベントの実施検討 ・産業観光資源としての産業団地進出企業との連携(工場見学など) ・公園等交流施設を活用した各種商業団体によるイベント開催支援 ・市内回遊性向上のためのシェアサイクルの活用	(第1回審議会)歴史的価値の高い公園を活用し、市外へ向けたPRが必要。 (第1回 審議会)夏野菜の収穫体験や田植え入れ替えの体験など、田んぼも畑もない、遊ぶ場所もない都民の方等にPRするとよいのではないかと。 (懇談会・鶴瀬 No.18、ふじみ野 No.5,20、みずほ台 No.15 まとめ) 商店会が行う地域活性化イベントを公園で実施しやすくしてほしい。公共施設のビジネス利用について、料金面・予約の面で使いやすくしてほしい。 (第2回審議会)イベント開催時の各種申請・承認が簡略化されるとやりやすい (懇談会・鶴瀬No.7) 商店会と交通事業者との連携強化(商店街にシェアサイクルステーション設置による収益化と、来訪者を増加させる仕組みづくり) (懇談会・ふじみ野 No.24) シェアサイクルステーションは街中に少ないので、増えると良い。

課題	取組方針	新No	取組の方向性	具体的な取組	審議会・懇談会のご意見、調査等の内容
【課題4】 事業者間・ 産業間の 連携の推進	【取組方針 5】 事業者相互のつ ながりをつくる	5-1	産業団地進出企業 等との連携の創出	○産業団地進出企業と市内事業者等との取引・連携の推進 ・市、商工会などの交流機会の開催による新規商取引の創出、 地産地消の推進など	(懇談会・鶴瀬 No.34) 産業団地進出企業との連携を希望(商工会などを通した異業種交 流会、BtoBマッチングなど) (市と進出企業の意見交換会) 既存事業者との取引ができるよう要望 (第2回 審議会)産業団地の情報(規模・人員・内容など)が入ってこない。市内企業へ向け 周知があるといい。
				○産業観光資源の活用<再掲> ・産業団地進出企業の施設を活用(工場見学など)した地域との 交流の推進	(市と進出企業の意見交換会) 工場見学などができるよう要望
				○行政との官民連携 ・埼玉版スーパー・シティプロジェクト(エントリー予定)に資する取 組の推進 災害協定などの地域貢献の推進 ・進出企業と連携した地域貢献の推進	(埼玉県企業局による産業団地分譲の審査項目)災害時の地域貢献への取組
				○水谷柳瀬川ゾーンの土地利用推進 ・ヒト・モノ・コトの集積による事業者間のつながり・雇用機会の確 保など	(第2回審議会)市の魅力・価値を上げるような商業集積が必要 上位計画(第1期基本計画)に位置付けあり(基本政策32)
		5-2	大型商業施設との 連携の促進	○大型商業施設(広域商業拠点)との連携事業の実施(ふじみ 産業元気づくり事業補助金) <再掲> ・いい富士見の日「ふじみマーケット」の開催 及び新たな連携事 業の検討	(懇談会・みずほ台No.6) ららぽーとの集客力の活用すべき。 (懇談会・みずほ台No.1) ふじみマーケットの見直しに伴い、新たな広域・共同のイベントを 検討したい。
【課題5】 人材確保と 多様な働き 方の推進	【取組方針 6】 職住近接の暮ら しを支える	5-3	都市間交流の機会 の創出	○来訪者向けの体験型イベントの実施の検討 ・農業体験などコト消費のニーズに対応した来訪の促進の検討	(第1回 審議会)夏野菜の収穫体験や田植え入れ替えの体験など、田んぼも畑もない、遊 ぶ場所もない都民の方等にPRするとよいのではないかと。
				○産業観光資源との活用<再掲> ・産業団地進出企業の施設を活用(工場見学など)した来訪者の 増加	<再掲> <市の既存事業として取組中>シェアサイクルステーションの設置(回遊性を高めるため、 利便性の向上)
		6-1	働く場の創出	○産業団地進出企業等による市内雇用増大へ向けた情報連携 ・市内優先雇用など、人材確保に向けた調整	(市と進出企業の意見交換会) 市内優先雇用について要望
		6-2	多様な就労ニーズ への対応	○ハローワークとの連携 ・ふるさとハローワークの共同運営や、就職相談会などの開催	<市の既存事業として取組中> (第2回審議会)働きたいリタイア層(ワーキングシニア)などへの就労支援があるとよい
				○埼玉しごとサポート・女性キャリアセンター(県)等事業の連携・ 活用 ・就職面接会の共同開催、アドバイザー派遣などを通じ、セカ ンドキャリア充実(高齢者の生きがい、子育てが一段落した世代な ど)多様な方が働きやすい環境づくり	<市の既存事業として取組中> (懇談会・鶴瀬No.54)業務を見直し、パート、委託などの違いを学び、人材確保の考え方を 改めるとよい。
				○内職相談・就職支援講座の開催 ・内職相談員による、在宅での就労希望者への内職仕事のあっ 旋・相談、就職支援講座(市主催)など	<市の既存事業として取組中>
		6-3	働きやすい環境づ くり	○先端設備等導入計画の認定<再掲> ・設備投資を通じて労働生産性の向上や、労働環境を改善する 事業者向け支援	<市の既存事業として取組中>
				○多様な働き方実践企業認定制度の促進 ・埼玉県が認定する多様な働き方実践企業となる市内事業者の 増加を推進	(懇談会・ふじみ野 No.26) 都内の飲食業界はスキマバイトの働き方で支えられつつある など、働き方の多様化が進んでいる。
				○雇用拡大事業者への支援 ・新たな雇用を行った中小企業への退職金共済掛金への助成 (中小企業退職金共済掛金等補助金)	(第2回 審議会)ららぽーとの賃金が良いので、働き手の取り合いとなり、高めに提示しない とこの地域では人員の確保が難しいと感じる。 (懇談会・ふじみ野 No.25) 産業団地が完成すると、人件費の高騰が心配。